

CP-1-i-02	薬学の心構えⅡ	第1学年	後期 必修	1.5単位
担当者	重野 豊隆・川崎 勝義			
一般目標 (GIO)	倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、倫理的態度について体系的に理解し、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。			
到達目標 (SBOs)	<p>【生命倫理と医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 2. 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。 3. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) <p>【患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。 2. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 3. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度) <p>【研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) <p>【コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度) 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度) 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度) 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度) 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度) 10. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度) <p>【人の行動と社会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) <p>【生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能) <p>【薬剤師の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 2. 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。 			
受講心得・準備学習等	数回の講義内容を受けて、SGD(small group discussion)を行う。SGDは必ず出席し討議に積極的に参加すること。事前に配布資料を指定し、予習してくることを前提とする回もある。全体を通して毎回1時間以上の予習を前提とする。			
事後学習・復習等	毎回の講義内容とSGDの成果を、指定日までにレポートとして提出すること。全体を通して毎回1時間以上の復習を前提とする。			
オフィスアワー	重野豊隆:毎週水曜日の16:40-18:30(哲学研究室)、 川崎勝義:毎週木曜日の10:30-13:00(心理学研究室)			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		毎回あるいは数回の講義を受けて、SGD を実施する。	
回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	具体的講義内容の予定、具体的な成績評価内容等	重野
2	生命倫理	生命倫理の四原則、生命の尊厳など	重野
3	医療倫理	医療倫理に関する規範(リスボン宣言など)	重野
4	患者の権利	自己決定権(自己情報コントロール権など)	重野
5	医療人としての倫理観	SGD	重野
6	研究倫理	被験者の権利(ヘルシンキ宣言など)	重野
7	薬剤師の役割	薬剤師の活動分野、確率論的な医薬品効果など	重野・川崎
8	自己を知るⅠ	自らを知ることの意義、自己とは、自己実現	川崎
9	自己を知るⅡ	自我同一性、自己開示	川崎
10	コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの成り立ち、様々なコミュニケーション他	川崎
11	カウンセリングの基礎	カウンセリングの条件、カウンセリングマインド	川崎
12	交流分析	構造分析、交流パターン分析、ゲーム分析	川崎
13	主張をする	アサーション・トレーニング	川崎
14	薬剤師のコミュニケーション	SGD (コミュニケーションに関する実習)	川崎

成績評価の方法	レポートの内容、講義及び SGD への積極的参加度によって評価する。
成績評価の基準	講義中の試験 45%、レポート 45%、SGD の積極的参加評価点 10%、教員ごとに 60%以上を及び総合して 60%以上を合格とする。
教科書	なし
参考書など	資料集編集委員会 編「新版 資料集 生命倫理と法 [ダイジェスト版]」(太陽出版) 伊藤道哉 編著「医療の倫理 資料集」丸善 シリーズ生命倫理学 全巻(丸善出版) 松島哲久・盛永審一郎 編「薬学生のための医療倫理」(丸善株式会社) 赤林朗 編「入門・医療倫理ⅠとⅡ」(劉草書房) 香川知晶 著「命は誰のものか(ディスカヴァー携書 042)」(ディスカヴァー・トゥエンティワン) 酒井昭夫 他 編「生命倫理事典」(太陽出版) 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 監修「ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション」(南山堂) 杉田峰康 著「交流分析」(日本文化科学社) 杉田峰康 著「交流分析」(チーム医療) 平木典子 著「改訂版 アサーション・トレーニング —さわやかに自己表現のために—」(金子書房)